

「廿日市市文化芸術推進計画」 第1回関係所属等検討会議

「廿日市市文化芸術推進計画」の策定に向けて、庁内の関係部局や関係機関等の担当者が一堂に会する「関係所属等検討会議」がスタートしました。

第1回となる今回は、計画の策定方針を共有するとともに、「私たちの仕事と文化芸術」をテーマに、それぞれの分野での取組や文化芸術との関わりについて紹介し合い、今後の計画策定に向けて理解を深めました。

【会議概要】

1. 日 時 令和8年9月9日(水) 午前10～12時
2. 会 場 廿日市市役所 7階会議室
3. 参加者 26名（職員等：18名、事務局4名、アドバイザー（受託事業者）4名）
4. 主な議題
 - ・計画策定の基本的な考え方
 - ・対話「私たちの仕事と文化芸術」
 - ・アンケート案の説明



1 はじめに

— 生涯学習課から —

○検討会議の役割

- ・本会議には、文化芸術の振興に直接関わる所属に加え、文化芸術との連携が期待される関係所属等が集まります。各分野から文化芸術との関わりを捉え、計画に盛り込む方向性や具体的な取組について検討します。
- ・本会議において、各分野の施策とのや連携の可能性を検討し、計画策定後の推進につながる庁内・関係機関の連携体制づくりを目指します。

○参加職員の役割

- ・各所属・分野での経験や課題意識を持ち寄り、文化芸術に関する課題、取組、連携手法、役割分担を考えます。

○検討会議の組み立て

	回次	主な内容（予定）
令和8年度	第1回	策定趣旨・進め方の共有、文化芸術との関わりの確認、アンケート・ヒアリング項目共有
	第2回	アンケート・ヒアリング結果等の共有、現状・課題の整理
令和9年度	第3回	目指す姿（基本理念）基本目標の検討
	第4回	具体的な取組の検討
	第5回	具体的な取組計画の推進方法の検討

2 計画策定の基本的な考え方

— 生涯学習課長 佐々木正臣 から —

○計画策定の背景

- ・平成29年の文化芸術基本法改正により、計画策定が努力義務とされ、文化芸術と観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等各施策との連携の必要性が示されました。
- ・市民活動、文化財、伝統文化、文化施設、まちづくり等の課題への対応が求められています。

○位置付けと計画期間

- ・文化芸術基本法に基づく市町村計画として、「廿日市市総合計画」を上位計画とする個別計画及び「廿日市市教育振興基本計画」における文化芸術振興施策の具体的推進のための計画として位置づけます。
- ・令和8～9年度の2か年で策定し、令和10～17年度を計画期間とします。

3 対話「私たちの仕事と文化芸術」

ワークシートを活用し、各自の担当業務と文化芸術のや、将来に向けた「できそうなこと（可能性）」について発表・意見交換を行いました。

1 あなたの所属の仕事と、「文化芸術」には、どんながありそうですか？

今取り組んでいることや、日頃の仕事から「文化芸術」とのつながりを考えてみました。
(※主なものを掲載)

【福祉】

- ・居場所づくりを支援していて、多くの場所で絵画などが展示されています。
- ・発達障害啓発週間に合わせた「カラフルアート展」の開催や、市役所ロビー等での作品展示のほか、市内の各事業所が、祭りなどの地域行事へ参加するなど、文化芸術を通じた地域交流が生まれています。
- ・認知症啓発の展示や、当事者が制作された作品の展示を行っています。
- ・認知症の人が集まるサロンでは、若い頃の経験を語ってもらったり、詩吟やピアノなどをできることを披露してもらったりと、文化芸術を取り入れた取組を行っています。

【子ども】

- ・保育園では、囲碁・けん玉・人形劇などを行っています。吉和地域ではウッドワン美術館での鑑賞、大野地域では太鼓など、地域の伝統芸能・祭りへこどもたちが参加しています。

【公共施設】

- ・少子高齢化や財源減少を背景に、全国的に公共施設の集約が進んでおり、対象として文化芸術機能が入ることが多いため、文化芸術は公共施設を考える上で重要な機能だと感じます。

【歴史・文化財】

- ・神社仏閣等の有形文化財や民俗芸能等の無形文化財を、歴史的・文化的価値の高いものとして指定・保存しています。

【教育】

- ・小学生向けのけん玉・人形劇・ミュージカル等の鑑賞体験、地域学校協働活動等、文化芸術を取り入れた事業を実施しています。
- ・津和野街道の交流事業では、街道の写真展示や沿道の絵画制作等、文化芸術を活用して街道の魅力を発信しています。
- ・中学校の部活動の地域移行を進め、地域のクラブが担う取組を進めています。
- ・地域と学校をつなぐ取組としてコミュニティ・スクールがあります。地域の人材や資源、既存の事業を文化芸術といかにつなげるかが重要だと思います。

【伝統産業】

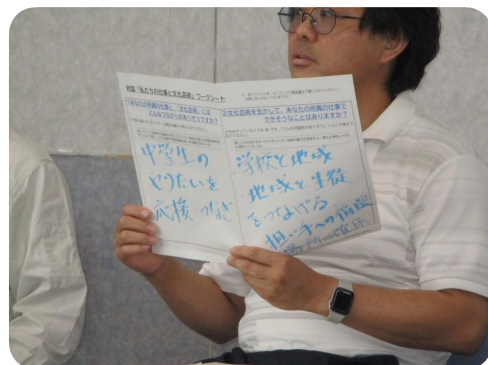
- ・宮島細工、けん玉、「木のまちはつかいち」など、地域の産業と文化に関わる取組を進めています。「木のまちはつかいち」は、将来的に地域の文化として定着してほしいという思いがあります。

【観光・交流】

- ・エコツーリズムやガストロノミー等の食文化に関する観光、世界遺産登録30周年に関する交流事業（モンサンミッシェルとの交流等）に取り組んでいます。

【文化施設】

- ・文化ホールとして鑑賞者の育成や支援のほか、鑑賞、体験の場を提供しています。美術ギャラリーでは、展示からワークショップまで、県内外、国内外を含む様々な人に展示してもらっています。



3 対話「私たちの仕事と文化芸術」

2 文化芸術を生かして、あなたの所属の仕事でできそうなことはありますか？

今やっていなくても、「こんな可能性がありそう」といったことも含めて考えてみました。
(※主なものを掲載)

【福祉】

- ・男性は、地域活動に集まりにくい傾向があり、文化芸術を生かすことで、これまで地域活動に参加しにくかった層の参加を促し、地域活動の担い手づくりにもつなげられるのではないのでしょうか。
- ・福祉分野の大きな課題である人材確保について、作品展示や文化芸術活動をきっかけに、福祉の仕事への関心を持ってもらうことにつなげられないかと思いました。
- ・普段、家にこもりがちな人も、文化芸術等さまざまな分野のイベントに触れる機会があれば、「興味があるから行ってみよう」と外に出るきっかけになるのではないかと思います。

【教育】

- ・生涯学習ビジョンの柱の一つ「人づくり」で、「楽しい」「ワクワク」という感覚を大切にしており、文化芸術は人づくりを進めるきっかけやツールになり得るものだと思います。
- ・図画工作・美術・音楽等の教科や総合的な学習の時間、地域行事等、こどもが文化芸術に触れる機会は多く、こどもの時期の経験がこれからの文化芸術との関わり方に影響します。国語・算数等に比べ後回しになりがちな文化芸術をしっかりと扱う必要があります。

【歷史・文化財】

- ・廿日市市には神楽等ここでしか見られない文化があり、厳島神社や宮島に残る神事・祭り等を継承・保存し、外に向けて発信することが地域の活性化にもます。

【公共施設】

- ・公共施設の多くはこれまで直営で運営していますが、文化施設など今後は、民間のノウハウを活用した官民連携等も推進したいです。

【伝統産業】

- ・ 伝統産業の振興、けん玉等を通じた情報発信・交流、木工産業の振興等に関わって行きたいです。文化芸術が産業振興や企業誘致のきっかけになるという視点もあるため、発想を転換していきたいです。

【観光】

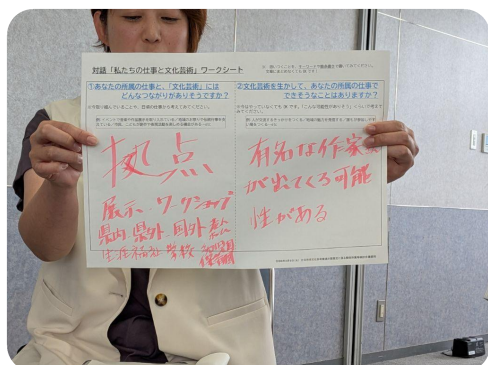
- ・エコツーリズム等の取組の拡大、体験型イベントの充実、世界遺産をはじめとする文化資源を観光に生かしながら保存・継承していくこと等が今後の可能性として考えられます。

【住民参加】

- ・市民センターは、「集う・学ぶ・むすぶ」という機能を持つことから、伝統文化の継承者を発掘したり、育成したりする場になり得ます。社会教育施設としての公民館とコミュニティ拠点としての機能を併せ持っているの、何か取り組みたい場合は相談してほしいです。

【文化施設】

- ・若い人に鑑賞の機会や経験を提供して、世界に羽ばたくアーティストを育てる場にしていきたいです。そのために、さまざまな人とのをつくる必要があります。
- ・作家が美術ギャラリーを拠点に活動して、将来有名な作家になっていくことが夢です。



3 対話「私たちの仕事と文化芸術」

アドバイザー（受託事業者：アルパック）から、全国の実践や研究などが紹介され、文化芸術と様々な分野とのについて、イメージを広げていきました。

📍福祉・健康

文化芸術が、人のや健康を支える

- ・英国では20年以上前から、孤独・孤立対策として医師等が文化活動やスポーツ等の地域の場を紹介する取組があり、日本でも文化芸術によって、健康に良い影響を与える「文化的処方」という言葉を用いた取組が進んでいます。居場所づくり・孤立対策と文化芸術を結ぶ視点は、この計画にも通じる点があります。
- ・岐阜県可児市の文化ホールでは「みんなでディスコ」という、障がいの有無にかかわらず一緒に踊り楽しめる取組を実施しており、誰もが楽しめる空間づくりの参考事例となります。
- ・文化芸術に関わる人は、ウェルビーイングの指標がよい傾向にあると言われています。文化芸術と健康の関係を施策に取り入れることは先進的な視点になり得るものです。

📍子ども

アートが子どもの感性や表現力を育む

- ・子どもの非認知能力や個性を伸ばす上で、アートが大きな役割を担うことができます。
- ・幼稚園や保育園等々にアーティストを派遣する芸術士派遣事業が、香川県高松市などで行われています。こうした専門性を生かして子どもの創造的な活動を支える演劇・コミュニケーション活動を授業に取り入れる取組は、表現力や自分らしさを伸ばし、居場所づくりにもつながるものです。

📍観光

観光を通じて、文化財を守り、生かす

- ・観光と文化財の関係も重要な論点です。出国税を財源とする国の支援が観光だけでなく、文化財関係や歴史的まちづくりの計画策定等にも活用される例があり、観光を文化財の保存・活用につなげる視点も考えられます。
- ・市が取り組むガストロノミーに関連して、鶴岡市や臼杵市など、食文化分野でUCCN（ユネスコ創造都市ネットワーク）に加盟している自治体を参考にするとよいです。

📍教育

こどもの頃の体験が、未来の文化芸術との関わりにつながる

- ・美術やアートに触れる手法として、知識の伝達ではなくコミュニケーションを重視する「対話型鑑賞」など美術を身近にする手法も参考となります。
- ・こどもの頃の鑑賞体験は、大人になってからの鑑賞への心理的ハードルを下げる傾向があります。若い世代への鑑賞機会の提供は中長期的な観客育成の観点でも重要です。

📍産業

アートの発想が、新しい商品やサービスを生む

- ・伝統産業の振興に加え、デザイン思考やアート思考を活用することで、従来の発想にとらわれない商品・サービスを生み出すアプローチがあります。経済産業省も「アート×ビジネス」の取組に力を入れ始めています。

📍歴史・地域文化

地域の歴史文化が、まちへの誇りや魅力に

- ・地域の歴史文化は、地域の人が誇りを持って他者に語れる価値になります。そのような価値の蓄積が人を集める力にもなりうるという視点があり、文化的・歴史的価値はまちづくりや産業政策にも関わってくるものです。

📍公共施設

文化施設のこれからを、地域とのつながりから考える

- ・1980年代から90年代にかけて、誰もが文化芸術に触れられる場として、全国に文化ホールが整備されました。現在は改修や建て替えの時期を迎え、施設の集約・廃止も課題となっています。施設は地域の人々にとって思い入れのある場所でもあり、効率性だけでなく、地域とのや施設がなくなることによる影響も考える必要があります。

4 アンケート調査票の確認

○アンケート調査の概要

- ・18歳以上の市民と中高生を対象とした関心度・活動状況の把握を把握します。
- ・全国調査と廿日市市の調査を比較できるような設問を取り入れています。

○意見交換で提示された視点

- ・障がいを持つ人が回答しやすいようにルビ振りが提案されました。
- ・特別支援学校等への配慮方法も教育委員会等と相談していくことを確認しました。

5 おわりに ～参加職員の感想～

- 同じテーマを検討するにも、部署によっていろいろな取組や考え方があることが知れて、とても勉強になりました。
- 裾野が広い分、可能性は無限。
- 普段の業務と文化芸術に関わりが思っていたよりも多く、また、他課の意見も聞いていて、勉強になりました。
- 部活動の地域展開を進めるに当たって、とても参考になりました。
- 文化活動は、福祉分野でもよく出ますが、なかなか進めることが難しいのが現状です。